

英 語 科

・ 27年度の「改善プラン」の検証（取り組みにおける成果と課題）

表現の場を多く設けた結果、表現しようとする態度や、場面に応じた対応ができるようになってきたが、一方で文法の整合性や、語彙力の不足が大いに見られている。本年度は、授業内における小テストやスペリングコンテスト、単元テストを通して適切な文法知識と語彙力を養ったうえで、その知識を活用したコミュニケーション活動の場を多く設ける。また、「話す」表現活動だけでなく、与えられたテーマに対して「書く」という活動も取り入れ、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」といった4技能を統合した指導を展開するとともに、生徒が到達度を振り返り、わかる達成感を得られる機会を設ける。

・ 今回の調査結果

観 点		分 析	課 題
1	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	第3学年においては、目標値を1.1ポイント上回り、ほぼ平均的な達成度であった。第2学年においては、目標値を1.2ポイント下回ったが、ほぼ平均的な達成度であった。	自由英作文に白紙の回答があるなど、「書く」能力に課題が見られる。授業や定期考査にて、テーマを与え、そのテーマについて考えさせるとともに、自分の意見を書き表す活動を取り入れる。
2	表現の能力	第3学年においては、目標値を0.3ポイント下回り、ほぼ平均的な達成度であった。第2学年においては、目標値を1ポイント下回ったが、ほぼ平均的な達成度であった。	場面に応じて書く英作文に課題が見られる。授業内におけるコミュニケーション活動を多く取り入れ、「書く」、「話す」活動を中心に、学習した知識を表現させる活動を取り入れる。
3	理解の能力	第3学年においては、目標値を2.2ポイント上回り、ほぼ平均的な達成度であった。第2学年においては、目標値を1.1ポイント上回り、ほぼ平均的な達成度であった。	「聞く」領域であるリスニングの問題に関してはおおむね良好であるが、「読む領域」である長文の読解に課題が見られる。英問英答の力や、内容を読んでポイントを掴む力を授業を通して養う。
4	言語や文化についての知識・理解	第3学年においては、目標値を4.7ポイント下回り、平均以下の達成度であった。第2学年においては、目標値を1.6ポイント上回り、ほぼ平均的な達成度であった。	語彙力に課題が見られる。毎時の小テストやスペリングコンテストを継続的に実施し、語彙力を増強させるとともに、外国の文化を教科書等の読み物を通して深めていく。

・ 28年度の授業改善策

(第1学年)

基本文法については、基本文の理解から応用問題に取り組むことで、正しい語順や語形の変化等を理解させる。また、教科書を音読することで様々な英語表現、対話文等に触れさせる。新出単語については、しっかり発音させ、くり返し書くことで正しい綴りを身につけさせる。また、テストによる確認を行う。

(第2学年)

継続的な小テスト、単元テストにより到達状況の確認を単元ごとに行うとともに、「話す」・「書く」活動を通して学習内容を表現できる場面を多く用意し、「わかる」喜びや、学習意欲を高めていく。

(第3学年)

学習内容の繰り返し指導により、基礎基本の定着を図る。具体的には、弱点である数字を多用した聞き取り問題や、入試問題にも通じる長文読解を授業でも多く取り扱うとともに、語彙増幅のための家庭学習や、その成果がわかるスペリングコンテストなどを設けていく。

